

平成28年5月2日

各 位

会 社 名 データセクション株式会社  
 代 表 者 名 代表取締役社長 CEO 澤 博 史  
 (コード番号：3905 東証マザーズ)  
 問い合わせ先 取締役 CFO 望 月 俊 男  
 TEL. 03-6427-2565

通期業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

当社は、平成27年5月15日に公表いたしました平成28年3月（平成27年4月1日～平成28年3月31日）の通期業績予想と本日公表いたしました同実績値に差異が生じたのでお知らせいたします。

記

1. 平成28年3月期 通期業績予想と実績との差異（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

単位：百万円	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	400 ～900	17 ～401	30 ～414	15 ～245	1.54 ～25.15
今回の実績 (B)	439	28	36	26	2.57
増減額 (B-A)	△460 ～39	△372 ～11	△377 ～6	△218 ～11	—
増減率 (%)	△51.1 ～10.0	△92.9 ～67.9	△91.2 ～21.8	△89.3 ～74.6	—

2. 差異の理由等

(1) 業績予想差異の理由

当連結会計年度においてはビッグデータ関連ビジネスが注目されている中、売上を早期に拡大させるため、主に新規サービス開発目的として大幅な人員の採用を実施致しました。その結果、ディープラーニング、海外インバウンド案件やミスブリンクラー社との協業を始めとする多くの新規のサービスが立ち上がり、売上高が前年実績を上回る結果となりました。

一方で今期サービス化されたサービスの収益計上の期ズレが発生すると共に、本格的な収益獲得が次期以降となっております。また、ビッグデータファンドへの株価予測サービス提供についてはチャイナショックによる株価への大きな影響もあり今期は十分な成果が出せず、蓄積された経験を基に来期に巻き返しを図る状況となっております。以上から当初の売上上限予想から乖離することとなりました。

利益面については上記新規サービス展開の為に大幅な人材の採用及び研究開発を実施致したこと、及び、売上高が当初上限予想から乖離したことから当初の業績予想の営業利益、経常利益、当期純利益の上限値と実績値との間に差異が生じました。

(2) 今後の取組について

平成29年3月期においては平成28年3月期でサービス化した人工知能（AI）ビジネスをはじめとする新サービスの本格的な収益への貢献を見込んでおります。主に以下のサービスとなります。

① 人工知能（DeepLearning）活用サービス

「不適切画像フィルタリングサービス」「利用シーン発掘サービス」等の引合が多数来ており5～10倍程度のビジネスの成長を見込んでおります。

② インバウンド関連案件

訪日外国人急増（前年比47.1%増）に伴う、旺盛な調査需要及び先行優位性と多数のレポート提供実績をアドバンテージに更なる拡販を見込んでおります。

③ 米Sprinklr社とのテクニカルパートナーシップ

センチメント（感情分析）エンジンの提供開始。米 Sprinklr 導入企業の増加に応じた売上増を目指しております。

④ ビッグデータファンド

ファンド運用で蓄積された経験をAIのノウハウを活かしながら、人よりAIの判断によって成果が確実に上がることを目指しております。

上記の他にもAI領域を中心として継続的に新規サービスの開発に積極的に取り組むことにより企業価値向上に取り組んで参る方針です。

（注）上記予想値につきましては、現時点で入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によりこれらの予想値と異なる場合があります。

以上